

平成 21 年度第 3 回稚内市廃棄物減量等推進審議会開催結果(議事録)

1 日時

平成 21 年 10 月 27 日 (火) 10:00～12:00

2 場所

稚内市役所 4 階 第一委員会室

3 会議の概要

(1) 開 会

(2) 会長あいさつ

◎中陳から挨拶

(3) 審議会

【事務局から第 4 回策定委員会 (第 2 回合同会議) の報告がされた】

以下に、質疑応答に関する発言内容を記載しますが、審議員が特定できないように委員名を伏せています。また、発言の内容についても、審議員が特定できる発言箇所を「■」としています事を予めご承知願います。

【意見・質疑応答】

○は審議委員、●は事務局

- 「数値目標については、平成 36 年度を目標にとのことですが、15 年もさきだと世の中は変わっているのではないですか？」
- 「人口推計がどうなっているかが一番大きいですね。これから人口は確実に減ります。それに基づき、施策を考えていかなくてはなりません。今後コンサルと話し合っていく予定で、次の審議会では具体的な数値を出せるのではないかと思います。」
- 「36 年には、稚内の人口はどの具体になっている予定なのでしょうか？」
- 「具体的な数値はないのですが、稚内市総合計画の中の将来の人口を参考にすると大体 32,000 人ぐらいだと思います。」
- 「良い施設を作っても、人口が減ったら使い道も少なくなるかもしれませんね。宗谷の人口は 8 万で、その約半数が稚内なので、南宗谷などと協力をしていかなくてはならないかもしれませんね」
- 「南宗谷、西天北は良い施設があるが、利尻礼文は今ごみの処理で困っています。ごみを減らそうと市では言っているのですが、ある程度のごみの量がないと施設の効率が悪くなってしまうのも事実です。ごみを減らしたいけれど、ごみが必要という矛盾があります。その考えると、今後は広域的にごみを集めることは十分考えなくてはいけないことだと思っています。」
- 「さくらヶ丘町内会は、有料化当初は分別がひどいものでしたが、最近はとても良くなりました。やはり住民の意識が高くなったのではないのでしょうか。アンケートにありましたが、分別が徹底されていると市民が思っているのが 9 割、減量等推進員が思っているのが 6 割と差があるのですが、やはり未分別のごみを特定の人が出しているため、差が生まれるのではないのでしょうか。その特定の人にはアンケートなど書かないでしょうし。それと、分別には持続性が大事だと思います。自分が分別したものが、どう活用されているのかが、市民に見えてこないのが残念です。そのようなことが見える仕組みが必要ではないのでしょうか？そうすれば持続もすると思います。」
- 「稚内のごみ分別の未来は、こちらには見えているのですが、市民は見えていないのが現状ですね。例えばプラは室蘭に行っているのですが、現状では遠くまで運ばなくては

いけない状態です。例えば生ごみでいうと、生ごみを回収して電気を作るなど、地域内で循環できれば市民もわかりやすいし、地域全体として方向性も見えるのではないでしょうか。この間の策定委員会に環境省の方が来られていましたが、環境省も地域循環を地域の住民に見せるということをテーマにしているようなので、稚内に来られたのではないのでしょうか。」

- 「富良野は生ごみ、バイオガスを平成2年から行っていますね。宗谷ではすでにやっているところはあるのですか？」

- 「南宗谷と西天北では、すでに行っています。」

- 「時間があれば見に行ってみたいですね。話しているだけではわからないこともありますし」

- 「アンケートの中で、分別を徹底しているという意見が、一般の方が9割、推進員の方が6割ということでした。出される方は、分別をまもっている方がほとんどですが、ある特定の方が分別のひどいごみの出し方をするものだから、推進員の気持ちとしては6割しか徹底されていないと感じてしまうのではないのでしょうか。名寄の話を聞きましたが、名寄は戸別回収とのこと。戸別回収は大変なので、ステーション回収をしたいのだけれども、ステーションの設置で住民とトラブルがあるそうです。そう考えると、ステーション回収をしている稚内では、トラブルはあるものの、がんばっているのではないかと思います。」

- 「人口が減って、ごみが無くなり、それが問題になるということでしたが、今後ごみになる商品自体が減っていくのではないかと思います。そう考えれば、利尻礼文との広域処理もそうですが、宗谷全体で一つにならなくてはいけないのかもしれないかもしれませんね。それと朝、回覧板が回ってきたのですが、その中に地域ごとのステーションに残された警告シールの貼られたごみ袋の数が書いてありました。低いところでは13個で多いところでは200個もの差があります。やはりアパートが多い地域が警告シールの量も多いようです。他の地域の現状を知ることが出来ることは、自分の地域、他の地域の様子がわかりやすいので、ある意味啓発になるのかもしれない。」

- 「特に警告シールの多い地域は、市で見に行き中身を見て、特定できればその人のところへ行き指導をしています。しかし、シールの貼られる割合は1%ほどです。ほぼ100%の方がうまく分別してくれています。」

- 「それは4月からずっと1%なのですか？」
- 「4月は有料指定袋を使っていなかった人は多少多かったですね。」
- 「アパートの方は転入出が多いので、例えば総合窓口課で転入出した時に指導はできないでしょうか？」
- 「ガイドブックは渡しているのですが、転入出が多い3、4月は忙しいので対応が徹底できるかどうかはわかりませんが、もしそれができれば随分変わってくるかもしれません」
- 「アパートの人の町内会費の未払いで、町内会が全国的に困っている状況です。ステーションも町内会費で買ったといっているのだけれどわかってくれず、ステーションにごみを捨てる人が多いのが悩みの種ですね。」
- 「全体の町内会で警告シールが多いのはどの辺ですか？」
- 「やはりアパートの多い地域です。栄、萩見、朝日、末広の団地などでしょうか。」
- 「たしかに自分の町内がどのような状態になっているのかはとても興味がありますね。そのようなことを住民が知ることが出来れば、何か行動をする人も出てくるのではないのでしょうか。」
- 「なぜ分別しなくてはいけないのかが市民に周知されていないと思います。その理解があれば、循環社会の必要性、広域処理の必要性などに繋がるのではないのでしょうか？分別するとこれぐらい私たちに見返りがある、とわかるのが一番良いと思います。それと以前分別を徹底していない人に罰則を与えるという意見がありましたが、私は反対です。ごみは人間の基本的な営みから出るもので、人柄だと思います。それを否定されるのは、あまり良い気分ではありませんし、単に罰則を与えて改善すべきものではないと思います。それよりは良い所を探したほうが良いのではないのでしょうか。例えば分別の綺麗な町内会ベスト10だとか、そういうことがわかれば、自分の町内も綺麗にしようとがんばれるかもしれません。それと警告シールですが、はっきりと警告シールを貼られたものは、市がその人の家に行き指導すると明記したほうが良いと思います。」
- 「良い所を探したほうが良いとの意見ですが、実はさくらヶ丘町内会は、ステーションに鍵をかるぐらい、分別ができていない町内会でした。しかし、鍵をからずに開放する

ことにより、逆にマナーが良くなったんです。鍵を開けるということは相手を信用するということですから、そういった部分によりマナーが改善され、今ではすごく綺麗な町内会になっています。そういったことは住民にとっても、とてもうれしいことだと思いますし、そういう部分から地域を作っていくことも出来ます。」

- 「そういった良い部分を、広報誌に年一回でも載せてみてはどうでしょうか。怒られるよりも、ほめられた方が伸びますし。」

【事務局からごみ処理基本計画策定に係る審議（答申案に向けた審議）について報告があった】

- 「（ごみ排出抑制のための事業所の役割についての話を聞いて）事業所から職員に対する指導をするのも大事ではないでしょうか。町内会の指導は聞かない人も、会社からの指導であれば話を聞くという人もいるかもしれません。」
- 「事業所から出るごみを減らすのは大変ですね。事業所は大量に物を使うので、ごみも大量に出てしまいます。」
- 「そうですね。事業所のごみの減量をどうすればいいのかがわかりませんね。」
- 「私のところでは、前は商品が来るとダンボールで来たのですが、最近はプラスチックの箱できて、後で回収するという方法を取っている業者もいます。」
- 「町並みにあったステーションを作ってみてはどうでしょうか。鉄の四角いステーションだと稚内にあっていない気がします。」
- 「ちょうど議会でも、観光都市に似合ったステーションを作ってみてはと話がでたところです。以前、稚内北星学園大学から授業で学生にステーションのデザイン考えさせたいとの話が来ました。今後そのような話も考えて生きたいと思っています。デザインのコントロールなどもいいかもしれませんね。」
- 「市民の目線ですが、もらったお土産の包装が邪魔で仕方ありません。あれは事業所で中身だけバラで売るといったことは出来ないのでしょうか？」
- 「私のほうで贈答品も扱っていますが、箱や包装なしで受け取ると、不愉快になるとい

う人が少なからずいますので、事業所としては基本的にバラで売るとするのは難しいですね。」

- 「事務所というよりも、私たちがそのようなものを買わないで、バラで買うようにする方が先ですね。集団回収についてなのですが、集団回収でサークルなどの運営費を稼ぐというのは可能でしょうか？」
- 「集団回収で得たお金を何に使うかはお任せしています。ただ、集団回収についてはまだまだ周知が足りないというのが現状です。」
- 「(新たな分別の区分の話聞いて) 木、枝、草ですね。特に枝は90円券を張らないで出す人が多くいます。富良野では燃料として使っているようです。」
- 「処理業者からも同じ意見が出ています。そもそも枝などはバイオマスになるので、無料で受けるほうが良いという意見です。それと観光都市としてのイメージも良いですし。あと、ステーションを小型化するとういという意見があります。大きいと雑に扱いやすいのではという意見です。」
- 「(生ごみの収集についての話を聞いて) 生ごみは夏場に臭いがきつくなるだろうから、2回が良いと思います。その分一般ごみの量が少なくなるでしょうから、一般ごみは1回でいいのではないのでしょうか。」
- 「生ごみについてですが、生ごみを週2回として、一般ごみや資源物と一緒に集めるかどうかについて、意見を伺いたいと思っています。」
- 「たとえば生ごみを一般ごみと同じ日に回収するとしたら、車両は2台くるのですか？」
- 「そうです。例えば、生ごみを他のごみと別な日に回収した場合、一般ごみの車両なども使えるので、車両を1台新しく購入するぐらいでいいのですが、一般ごみと同じ日に回収すると、一般ごみの車両は使えないので、2台3台と購入しなくてはいけないかもしれません。市民の目でみると、一般ごみと同時にだせるといいのですが、どうしてもお金はかかります。たとえば去年、資源物にプラを増やした場合ですが、2,800万ぐらいかかりました。」
- 「出す側から見ると、一般ごみの中から生ごみが減るだけですし、一般ごみと生ごみを同時に出したとしても、ステーションの容量は十分足りると思います。ただ、生ごみの袋が破れた場合は困りますが。」

- 「一般ごみの袋ですが、市民は10・20ℓを主に使っています。現在は生ごみも一般ごみの中に入っているのですから、生ごみの量はそこまで多くは出ないと予想しています。ただ、収集する側からは生ごみ2回、一般ごみ1回、資源物1回と、合計4回は多いのではという話がでています。出す側からの意見で進めなくてはいけないと思っています。」

(4) その他

現在の審議会の任期により、新たに審議委員の選任について必要である事を説明し、承認いただいた。

平成21年11月28日(土)に稚内北星学園大学で開催される市民フォーラムについて、事務局から報告があった。

平成21年11月中旬に第4回稚内市廃棄物減量等推進審議会を開催することを確認した。

(5) 閉 会